

一度は見ておきたい重要文化財シリーズ

大分の旅編
その2



今回は「一度は見ておきたい重要文化財シリーズ」と題し、歴史的価値、学術的価値の高い石仏や石塔をご紹介します、その魅力に迫っていきます。

観光情報も添えていますので、ぜひ実際に足を運んでいただき、その雰囲気を感じ、目でゆしみ、心で歴史に触れてみてはいかがでしょうか？

岩戸寺宝塔(大分県国東市国東町岩戸寺)

岩戸寺宝塔は、大分県国東市にある岩戸寺にあります。「国東塔(くにさきとう)」と呼ばれる宝塔で、銘文のある国東塔としては最古のものです。

石塔は、石造仁王像が立つ参道を100m位行き、鳥居をくぐった先の大石の上に建っています。



国東塔とは

国東塔は、大分県国東半島を中心に独自の発展を遂げた宝塔の一種です。一般の宝塔には台座がないのに対して、反花(かえりばな/蓮華の花が開き外側の花弁が反り返った様子が彫られた台座)または蓮華座(蓮華の花が開いた形に作られた台座)、もしくは両方からなる台座が備えられ、縦にすらりと長く美しい姿をしているのが特徴です。

特徴

岩戸寺宝塔は、火山岩の一種である安山岩製で総高3.29m、境内中腹にある大きな岩の上に立っており、まるで信者を迎えているように見えます。

基礎の側面は二区に分けた彫刻が入り格狭間(こうざま)と言われる割り形(くりかた)の装飾が彫り込まれ、基礎の上には国東塔の特徴である反花・蓮華座を重ねた円形の台座が置かれています。

塔身は、頂部の笠と接する部分に細い首部があり、側面には造立年月日及び納経のために造立されたという七行の刻銘が入れられています。その上に置かれた笠は、傾斜が深く両端の反りは力強さを感じます。

輪の宝珠・上下請花部・九輪の上に心柱頭(塔の中心を貫く柱の頭部分)を出しており、こちらも国東塔特有のデザインです。

歴史

岩戸寺は、正式には山号をつけて「石立山岩戸寺」と言い、養老3年(719)に仁聞菩薩(にもんぼさつ)により開山されたと伝えられている天台宗の由緒あるお寺です。

弘安6年(1283)の銘があり、前述の通り国東半島にある国東塔の中で最古と言わ

れています。2011年2月に修理の為一旦解体された際、塔が建てられた13世紀頃のものと思われる3本の鉄製のノミの刃が発見されました。

なお、1933年1月23日に国の重要文化財に指定されています。

周辺の観光情報

国東半島は、神道と仏教とが融合する「神仏習合」発祥の地と言われており、国東半島一帯にある寺院郡の総称を「六郷満山」と呼びます。この地で受け継がれてきた神仏習合の文化「六郷満文化」に触れることができるのが、宇佐神宮六郷満山霊場の巡礼「31霊場巡り」で、岩戸寺も18番目の札所となっています。

31霊場の中には、全国に約44,000社ある八幡宮の総本社である宇佐神宮、日本三文殊の一つで「三人よれば文殊の知恵」の発祥地とされる文殊仙寺、国東といえば必ずと言って良いほど紹介される山門の仁王像が有名な両子寺などもあり、スケジュールに合わせて回ることも可能です。

旧正月に開催される国の重要無形民俗文化財指定の火祭り、「修正鬼会(しゅじょうおにえ)」も有名です。六郷満山に1000年以上前から伝わる伝統行事で、2体の鬼が松明(たいまつ)を振り回し暴れ踊る演舞が見どころです。国東市は岩戸寺と成仏寺の隔年交代で、豊後高田市は天念寺で開催され、時期が合えば見ることができます。



交通アクセス

岩戸寺

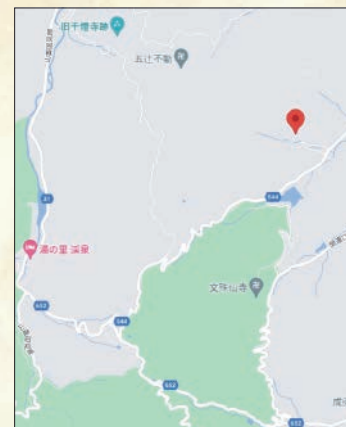
住所：〒872-1653 大分県国東市国東町岩戸寺 1232

〈公共交通機関〉JR日豊本線「杵築」駅より大分交通バス杵築バスターミナル行きで10分 終点下車、大分交通バス国東行きに乗り換え1時間、終点下車、車で20分

〈自動車〉

鹿児島・宮崎方面：東九州自動車道から大分空港道路「杵築IC」より約50分

福岡方面：東九州自動車道 福岡大分区間から、宇佐別府道路「宇佐IC」より約55分



まとめ

今回は、大分県にある岩戸寺宝塔をご紹介いたしました。細かなデザインにも意味が込められ、受け継がれてきた思いがあります。

また、石塔自体の形だけではなく、建てら

れた場所や土地に根付いていた神仏と人の文化に触れることも、史跡を訪れる醍醐味ではないかと思います。

何百年も守り続けられてきた石塔。時代・文化を感じるその佇まいを、ぜひ現地に足を運んで体感してみたいはいかがでしょうか。